

最後の一人 最後の一錢まで

陸軍中將 本間雅晴(ニ)
 禪と兵隊(傷兵解説) 木原 清(三)

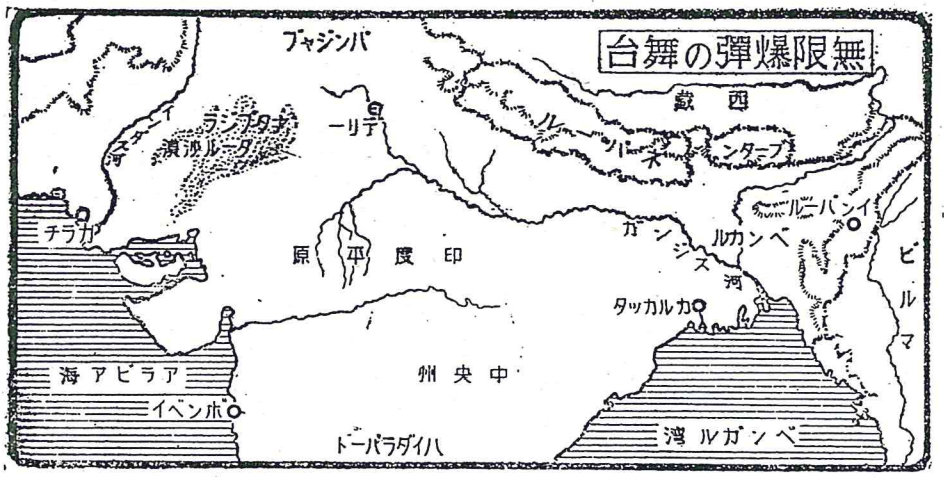
高田戦闘機部隊(敢闘殊勳) 椎名二郎(四)

詰將棋新題 八段 塚田正夫(五)
 編輯後記 松野一夫(六)

傑作小説陣

共軛回轉彈(科學明瞭) 海野十三(七)
 守 錢 奴(大東亞戰) 大林 清(八)
 叛逆者ペロシ(防諜小説) 大下宇陀兒(九)

讀切長篇 冒險小説 無限爆彈 守友 恒(六)



十月三日
 軍人援護に關する勅語奉戴記念日

新青年・第二十五卷・十月號・目次

秋季特輯・太陽會傑作集

豫 子 供 の 戦 ひ 告 白井喬一(一)
 爲 武 士 者 竹田敏彦(二)
 ほ い と の 勘 太 吉川英治(三)
 新 し き 牧 歌 木村 毅(四)
 平 し き 牧 歌 加藤武雄(五)
 熱 大佛次郎(六)

詰將棋新題 八段 塚田正夫(五)
 松野一夫

軍人援護の強化 軍事保護院 本庄 繁(ニ)

「太陽會」傑作集について
 閉せば劍、開けば蕪風、それ自らは民族の高き象徴、これは扇子のことであるが、編輯子は所謂國民文學を恰かも扇子と心得る。今次戦争に皇國必勝は明々白々、眞に戦ふ理あるものに收戦はない。たゞ問題は、たとへ血みどろであらうと、如何に天晴れに勝つか、そして勝つて後大東亞十億が如何に晴れ晴れと勝利を誇ぐべきか、ここに存する。そこで扇子が最も有効に構へられねばならぬ。さて、その扇子はどうだ？ 穴が明いていたり骨がよぢれたりしてはならないか？ 省みて扇子屋の番頭は頭を掻く。それは閉ぢて劍に代へ得るとしても、十億の人前で開くには些か心許ない。これがわれわれの直面してある現實なのである。
 そこで今、眞に利劍たり蕪風たる扇子の提供を我等は試みる。本號に太陽會出馬をお願いしたのである。
 太陽會とは又の名六人會、本號の六氏の集りを指す。小むづかしい理窟は抜き、たゞ一意六つの力を併せて沈滞の折界に意義ある仕事を生まうとの申合せであるのみ。
 されば、本號はその第一の烽火。極限された頁数のことではあるが、併しこれにより、國民文學第一線陣が今や何事かを爲さんとしつゝあるを識り、本號が全頁を提供した微意を汲んで頂きたい。
 本號は勿論文藝雑誌などではないから、理論文學運動などのお先棒を擔ぐ意志はない。たゞこの第一の烽火に呼應するものが各所で擧げられる事を期待し、その人も太陽會と俱に、或ひは太陽會を超えてでも進まれん事を望んでゐる。それ故に太陽會同人諸氏の福かな念願でもあるのだ。